



大山道中膝栗毛

二編

下

六

^ 13

3664

6







おかし けしきよくくたさるおと 屋敷のせ 住  
 籠おかし 籠おかし 籠おかし 籠おかし 籠おかし 籠  
 泊おかし 泊おかし 泊おかし 泊おかし 泊おかし 泊

あふぐく年おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住

えんどうしちうしん 家おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住

「おかし 答を今書くさるのたのし

たすちかおかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住

「おかし 君よりおむりしるも後人武百でえんじりしるも後  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住  
 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住おかし 住



ア悪くもさるべし。と禪心でもなり。あんまり  
あきまのころの「あえの禪心でも時境でもあんな  
ぶらわつち目よきくあんななり。ねんめう。コウ  
禪心くつがけらつちなる回きと一書かして見ゆつが。  
おめんをひらうへに大悟道のをとめとけらうとあんなのり  
ごえでもゆつてまきう。うくあんなでも思ふと受入人  
だヨサアそえるうらつ。あんなゆつてまきうよ。うらうこんど  
く。サアあんなと「待ね」そうきんゆつめう。うらう

そんるうらまが「あえ」先サ枚子のゆあでサ  
宿屋の女と服をう。うらうやあえとて服を  
盛よ知らうよ。そんるあゆかあるあゆかあゆか  
とらう。あ「そんる」く。枚子ゆああゆかあゆか  
女と服盛りのゆああゆかう。あゆかあゆか中法達とらゆが  
ごう。うらまきう。そんるあゆかあゆかの縁さ  
あゆかあゆか。うらう。今度うら「あえ」ゆああゆかあゆか  
あゆか。うらゆああゆか。あゆかあゆかあゆかあゆかあゆか

廿九日。此の事。なつたの。ゆへに。その。こと。を。い。う。は。い。ふ。こと。  
 早く。さう。い。う。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。  
 是の。結。核。の。み。か。つ。り。守。理。織。は。厚。板。の。み。か。つ。り。守。理。織。  
 へ。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。  
 ち。つ。と。實。の。み。か。つ。り。守。理。織。は。厚。板。の。み。か。つ。り。守。理。織。  
 今。度。の。み。か。つ。り。守。理。織。は。厚。板。の。み。か。つ。り。守。理。織。  
 ま。ん。じ。う。で。あ。ん。ま。り。合。い。く。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。  
 だ。ま。り。で。あ。ん。ま。り。合。い。く。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。

此の。事。を。い。う。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。は。い。ふ。こと。











此の世にても人々の目撃する事ありて  
 其の事なるを以て言ふべし。其の事  
 なるを以て言ふべし。其の事なるを  
 以て言ふべし。其の事なるを以て  
 言ふべし。其の事なるを以て言ふ  
 べし。其の事なるを以て言ふべし。

此の世にても人々の目撃する事ありて  
 其の事なるを以て言ふべし。其の事  
 なるを以て言ふべし。其の事なるを  
 以て言ふべし。其の事なるを以て  
 言ふべし。其の事なるを以て言ふ  
 べし。其の事なるを以て言ふべし。

九山三

四十一









大山乃志  
四六庵頭

猿乃考

まろなれ

うきも

一筋の

さうお

大山乃志

四六庵頭



文東

まろなれ

大山乃志

四六庵頭





十三年七月の同月...  
 多事...  
 なる事...  
 斗り...  
 せだ...  
 め...  
 お...  
 の...  
 が...

打...  
 熱...  
 そ...  
 が...  
 ち...  
 さ...  
 ま...  
 び...



かろう。二平よゑてえちを人「どなはく其根あつれ存え  
實じゆ入い年ねんののも妻よめたたくくににててりりまませせんんがが。ちちまま入い根ねのの根ねよ  
ゑてて者ものののささととちちりりををかかららうう。此こゝれれををささるるふふをを妻よめととしし  
ののででささりりままいい。ままるるははとといいひひももままををややととししああ  
成なままのの又また後のちととああてて継ついで後のちのの似よせせののよよ妻よめててもも正ただのの也なり  
一い由よし共どもちちままのの。可べししくくそそののままるる二に年ねんののでで賞しょうややせせうう。此こゝれれ  
ままるる人ひとののままるるのの似よせせとといいふふももままるる人ひととといいてて困まじりり  
ままるるららうう。又また妻よめよよちちららいい。ちちままるるてて人ひとををかかららううせせちちままるる。

様ようへへいいままいいひひてて可べししくく。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに  
人ひとををかかけけるるののうう。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに  
ののよよのの存ぞん。孝こうののせせややアアままるる人ひと。可べししくく。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに  
是こゝららアア。妻よめとといいふふららアアとといいふふ。イイヤヤちちららままるるアアがが  
ようようららうう。それそれとともも。ちちららかかららいいとといいふふ。可べししくく。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに  
是こゝれれでで。世よののままでで。可べししくく。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに  
ままるる。根ね母ぼとといいふふらら。可べししくく。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに  
ままるるアアがが。ササアアとといいふふののままでで。可べししくく。今いまままでで世よののままでで賞しょうううらら。何なに

とうしは是が歌を。判後徳が二つでニギ。よりハハしく西  
 難うござうまの「時」が美がとる。出さけよとる  
 おろ「おろく」大まよひ問あつてあまを「後梅」のよ  
 ござうまの「おろく」さふだうけ。おまれまの「イヤ」さるる  
 よくちろ中「サ」く「連」く「あて」えさる「旅」を  
 て。さ「お」お「あ」つ「い」さ「ま」く「い」イヤ「さ」るる。ゆ  
 までわざうらて「あ」が「う」ら「よ」イヤ「く」ひ「ら」と「お」れ  
 て「る」る「縁」。「え」の「金」を「え」る「る」る「の」お「ど」は「お」人

うらめ  
 事おろ。う「お」あ「え」「お」お「で」ござうまの「あ」ま「ま」ち  
 お「あ」ら「ま」で「お」お「ら」「ま」さ「う」「イヤ」く「後」の「あ」ま「あ」め  
 が「ひ」ろ「く」さ「う」「お」お「ら」「ま」さ「る」こ「ち」ら「お」お「福」  
 ちろく「い」ち「ん」が「土」用「の」あ「ら」ま「ら」て「生」る「後」の「府」の「う」こ  
 い「ら」ま「が」あ「ら」る「の」う「お」お「ら」「ま」さ「る」く「後」の「あ」ま「あ」め  
 がる「あ」ら「ま」の「う」ら「ま」ら「う」て「ら」る「モ」ウ「お」お「の」ま「あ」ら  
 て「人」の「お」お「ら」て「お」お「ら」の「う」ら「ま」ら「く」「ヤ」あ「ら」ん「う」け「あ」ら  
 ね「お」お「ら」る「ら」お「お」ら「ま」ら「う」が「あ」ら「ま」ら「う」「サ」ア「く」

1  
 支度さすてさすませうト 様の様へ 己の前の体合お  
 ぶけらさるるはお箱の面へのぞう。サササハ網と付ケ  
 えて中りませうアコしくめんぶる網へ古くうてお太  
 りね様の面をうら分見取で費のぞ其後をさすハ  
 何ぞさすさるりません首ツツ西の面てコウくねだらと  
 ツイぬけら箱は志ておまま  
 押し「是サ付えは」とらあのみよ及中て妙へののびさ  
 ちるさささるせ因いおあまえんふの打母でも付サラねん

ちるねんト 何れさうふらさるる  
 ござりません馬さあもいさうとゆう 何れと付えさる  
 格の様がうくさるはさ  
 初て「おまさん」いろくちさる箱の箱をえんと元のたにい  
 細い紙付く葉ておのいさあめさる付替へるお成るは  
 ちるさるぶじ家入出るさるさる付替へる「い」な箱さるト  
 さるをさる「は」イマサ 初ちれがさる付のさる強も付てサ  
 ちき細い半さ 「は」イマサ 初ちれがさる付のさる強も付てサ  
 「ア」け強ら子「さ」まよ「い」や「は」さるもあづらとません



けいこふあゆてそめ漢と云々いけしるるるは格のみをひるもあま  
 なく是と格は親がや海切せりまき不ては今更なるもさるるれき  
 馬やうせんといまむるまうちり格を六油とまきつ 一任んお後が  
 のりえの墨ひまむあちくじとてそをぬゑあめて 一任んお後が  
 きまうてさすけけうのせ。ぬえり長体とていひてあめ  
 るさふじうぶ。心まむくちあられ 成程をみよの考の  
 ぬえんんべつ 格をゆるまきつ 一任んお後が 一任んお後が  
 ちてさるまきと愛よりいへるぬえり。ぬえり長体とていひてあめ  
 せけふく 一任んお後が 格をゆるまきつ 一任んお後が 一任んお後が  
 一任んお後が 一任んお後が 一任んお後が 一任んお後が 一任んお後が  
 一任んお後が 一任んお後が 一任んお後が 一任んお後が 一任んお後が









下岸よりけしや邪ヲゆらまらね ハ「ヤア是ハ妙ニ事ナシヤ

おしこの女 ハ「押込口をまらり 婿有きなり ハ「サア口形方お集

るまら ハ「サアお世話 ハ「サア 福之の ハ「サア ハ「サア ハ「サア

徳のちの ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

の古跡 ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

向の松並木 ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

とくく ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

るまら ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア ハ「サア

見ぬ物も多きは...  
まゝに...  
...  
ヤアア  
...

韃靼粟毛三編下巻終

門速  
相良

天保四癸巳年孟陽葺取

江戸書林

